

会議録（要点筆記）

会議名	第6回米原市地域福祉計画推進会議
開催日時	平成30年7月25日（水）午後1時30分から午後3時まで
開催場所	米原市役所 米原庁舎 2階 会議室2A
公開・非公開	公開
傍聴人	なし
出席者	出席委員：11人 空閑委員、阿藤委員、永田委員、森委員、西秋委員、吉野委員、樋口委員、福永委員、振角委員、棚池委員、伊藤委員 欠席委員：4人 中村委員、高木委員、北森委員、江川委員
	事務局：10人 市：堤健康福祉部長、立木次長（くらし支援課長）、平山課長補佐、伊賀並市社会福祉協議会：田中地域福祉課長、村山課長補佐、中川、伏谷、膽吹、宮永、南方 (株) ジャパンインターナショナル総合研究所 荒井
議題	(1) 第2次「まいばら福祉のまちづくり計画」の骨子（案）について ・各調査の状況 ・基本理念・基本目標
結論	・市民ならではのご意見を丁寧に受け止めながら計画策定を進める。 ・基本理念については、現行計画を引き継ぐ。 ・基本目標については、キーワードを踏まえながら検討する。
事務局 ただいまから第6回米原市地域福祉計画推進会議を始めさせていただきます。本日は中村委員、北森委員、江川委員、高木委員より欠席のご連絡をいただいております。永田委員、棚池委員は後ほど来られる予定です。本日は委員15人中現在9人のご出席をいただいております。会議は成立しております。前回に引き続き、ジャパン総研の荒井さんに同席していただき、後ほどアンケート調査結果等の説明をしていただきます。 1. 会長あいさつ こんにちは。かつて経験したことのない高温により、昼夜を問わず熱中症患者が増えておりますので、体調には十分ご注意ください。さて本日はお忙しい中、また暑い中のご出席ありがとうございます。本日は、第2次まいばら福祉のまちづくり計画策定のためのアンケート調査結果の報告と、これからの進め方についてご論議賜ります。活発なご意見をいただき、これからのまちづくりに反映させて参りますのでよろしく願いいたします。	

2. 議事

(1) 第2次「まいばら福祉のまちづくり計画」骨子（案）

会 長 議事に入る前に事務局より過去の振り返り並びに座談会の様子等について報告していただきます。よろしく願いいたします。

事務局 前回の振り返りについて簡単に申し上げます。

前回の2月27日には、昨年の市民アンケートが1,200名余りにのぼる高い回収率であったとの概略報告を行いました。それから、ふくし座談会の開催方法や進め方について議論いただき、参加しやすい座談会にすることや幅広い世代の声を計画に反映することなどをご指摘いただきました。詳細はのちほど申し上げますが、資料2がふくし座談会の状況でございます。

関係機関の事業所様にたくさんご参加いただき、「みんなでつながっていく」という取り組みができました。多くの推進委員様にもご参画いただきありがとうございました。その中で工夫した点を申し上げます。

委員様からのご提案で、福祉座談会を平仮名で「ふくし座談会」と柔らかい表現にいたしました。それから市内の作業所のコーヒーを提供いたしましたところ、多くの方々にご購入いただき、理解が深められました。また地域ごとに開催した座談会の1回目は地域課題の洗い出しを目的として学区ごとにテーブルを分け、2回目の座談会では最初はくじ引きによるテーブル分け、その好きなテーマに移動できるようにいたしました。前回の推進会議での皆様方の意見をくみ取り、工夫しながらの座談会を展開いたしました。座談会では多くの方から「独居の方が地域に増えている」「自治会等の担い手の後継者不足」「放課後児童クラブを利用し、直接家に帰宅してしまうため地域に外で遊ぶ子どもの姿が見られない」という共通のテーマが挙がっておりました。また、自治会のつながりの希薄化が叫ばれる中、先日の米原市での竜巻災害の際は、自治会メンバーが総出で被災者への支援・協力されており、米原市の中にある地域の底力や自治会のすばらしさを身近に経験いたしました。本日はこの後説明しますふくし座談会の結果等を踏まえて議論を深めていただきたい。

会 長 ありがとうございます。では議事に入らせていただきます。まずは報告事項の資料1の最初から26ページまでの報告及び27、28ページの「福祉のまちづくりの課題」について簡単に事務局から報告いただきます。

事務局 【資料1の26ページまで説明】

会 長 ただ今、事務局から課題までの報告をさせていただきました。ここまでの中でご質問がございましたらお願いいたします。

調査やアンケートなど膨大な資料であり、中身も複雑でございます。何かご質問はございませんか。

委員 計画策定に向けたアンケートの3番、子育て世代アンケートはどのようなイベントでどのように実施されたのですか。

事務局 近江の双葉体育館で未就園児を対象に開催された「いきいきフェスティバル」の受付横で、粗品をお渡ししながら、アンケートへのご協力も呼びかけました。

委員 そのイベントはどのように周知されましたか。(私は)知りませんでした。どういう方々が企画されたのですか。

事務局 子育て支援センターが定期的にイベントやセンターの開放日等の通知をしておりますので、子育て支援センター等に來ていただいている方をはじめ、多くの未就園児の方に配布されました。

委員 それに関連して、子育て世代アンケートの調査結果では「行事や活動にどの程度参加されていますか」の設問に対して「参加している」の割合が9割にのぼっておりますが、イベント会場に來ている方へのアンケートではそのような結果になりやすく、偏りはございませんか。

事務局 今回は少しでも多くの方の声を拾うために、子育て世代が一番多く集まるイベントの中で実施いたしました。ご指摘のとおりでございます。子育て支援センターは各地域にございますので、そこに來られている未就園児の方の実態とアンケート結果とをどのように分析するのかなど、今のご指摘を踏まえてセンターとも相談して検証いたします。

また、あくまでもこの結果は未就園児の子育て世代が対象であり、就学児の子育て世代の声は拾い切れていない状況でございますので、昨秋に行われた全体の市民アンケートの結果等も含めて、センター職員に今回のアンケートを見た所見を伺ってまいります。

委員 この「行事に参加している」の中身は、來場者としての参加かと思われませんが、主催側として参画している方の割合を調べられたことはございますか。計画との関連性の有無は不明でございますが、様々な担い手不足が散見される中、行事への参画や参画への意向の有無などを調査してはいかがでしょうか。

会長 どの団体からも担い手不足の声が上がりますので、いい意見だと思います。

事務局 今回は小さな子が対象のイベントであった上、A4サイズの用紙1枚に収まるようにとの意図もございました。そのため十分な調査を実施できておりませんでしたので、計画策定を進める中では、そのような参画の意向などの声も確認していきます。

副会長 ありがとうございます。資料についての具体的な意見はこれからも委員の皆様から伺っていきます。全体の感想でございますが、我々が目指してきたのは密室の会議ではなく、市民の皆様と一緒に作ることを大事にする開かれた会でございます。前回の、市民の方の声をどのように拾うかという議論もその流れです。今もいくつかご意見をいただきましたが、計画を作る、ア

ンケートを取る、懇談会を実施することをきっかけに、いかにこのようなプロセスに参加していただくのかが大切で、それが自分たちの声が届くという実感を経験していただくことにつながります。そこに計画策定の意義がございます。模造紙に書いていただいたご意見にも市民ならではのものが多くございました。そのようなご意見を丁寧に受け止めてまいります。また、アンケートに答えていただけない、イベントに参加できない方の声も代弁していく役割も求められています。

会 長 ありがとうございます。他にご意見がございませんので次の議題へ移ります。資料1の29、30ページ以降にございます、基本理念・基本目標について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 【資料1の29、30ページを説明】

会 長 ありがとうございます。この基本理念・目標には素案の内容が含まれておりますので、本日のメインとしてご議論お願いいたします。まずは理念に対する議論をお願いいたします。

委 員 まず、理念とはだれにとっての理念でございますか。市民など全員を対象としておりますか。

事務局 対象はとても広く「米原市に関わる全ての人々」に共通する理念でございます。

委 員 資料をいただき、基本理念の案の4までを見ますと、5つ目の案を作りたくなりました。「今こそ安心・安全を だからこそみんなで支えあう」です。「こそ」を重ねて韻を踏んでおります。

会 長 案はすでに事務局から出ており、さらに新しいものは言い出しにくい中ありがとうございます。たしかに安心・安全は大切なことでございます。

委 員 福祉のまちづくりの中の基本理念とのことですが、そもそも言葉を変える必要はありますか。色々な拡大解釈も含めれば、案1の「自分らしく 心豊かに 安心して暮らせるまち まいばら ～みんなでつくる つながりと支え合いのある まちを目指して～」は、案の2～4もすべて包括しております。このままでみんなが幸せになれるものであり、これをしっかりつなぎながら時代・時期、市民が今必要としている実情や情勢に合わせて計画を変えることが必要なのであり、基本理念は変える必要はございません。

会長 基本を変えると後が揺らぐというご指摘でした。確かにいくつか案は出ておりますが中身は同じような表現でございます。現行の基本理念はかなりしっかりしたものでございます。他にご意見はありますか。

委 員 基本理念を変える必要はございません。貫き通すのが基本であり、作成時に十分議論されたはずなのに案が3つも出ること自体が疑問です。また「自分

らしく」という表現は個々人のことであり前提で、「総ぐるみ」は住民・市民の視点からは分かりにくい表現と感じます。

事務局 ご意見ありがとうございました。事務局でも現行の踏襲でいいものか悩んだ末、議論を深めるためにキーワードをつなげた案をお示しさせていただきましたので、委員の皆様のご意見のとおりであると受け止めている次第でございます。案がない状態では出せませんでしたので、数案出させていただきました。

会長 ここまでの議論では、現行のままでいいのではないかというご意見が多いようですが、他にご意見はございませんか。

委員 案の1はとても良いと感じますが、「自分らしく」ではなく、案4の「健やか」という表現の方がわかりやすい。「総ぐるみ」は言葉として適当でないと感じます。

副会長 先週、事務局とお話した際に、現行の理念は素晴らしいものであり、米原市は5年間この理念を推進してきましたので、それを大事にしつつ、高齢化の進行など変化してきた実情に合わせて基本目標などを具体的なレベルで議論していくことが大事なのではないかと申し上げました。今のご意見を伺う中で、理念とは何かを熟考いたしました。方向性を示し、それを市民の皆様と共有するものであるため、わかりやすさが大事でございます。「みんなで一緒に」も「総ぐるみ」では重たいニュアンスを感じます。漢字が少ないことや強いる表現でないことも大切です。今のご意見にもございましたが「自分らしく」には他人から言われると強要される印象がございます。それらを含めて、またこれまでのご意見からも現行の案1を大切にしながら、「健やか」「安全」なども理念やサブタイトル、目標などに出していけばいいのではないかと思います。

会長 ありがとうございます。事務局も苦勞して4つの案を作られたと思いますが、「開かれた会議」という観点からも、委員様のご意見からも、現行が一番いいと意見を多くいただきました。

次のページに基本目標がございます。これも項目ごとに3～4つの案が示されております。これらについてのご意見を賜ります。

委員 それぞれの案に事務局が込められた思いをお聞かせいただけますか。

事務局 基本目標はアンケートの課題のまとめやキーワードを集約する中で取りまとめました。

まず(1)の「交流、居場所」に関する目標案の1は現行計画のもので「つながりを深める取組の充実」でございます。案の2番目「顔の見えるつながりづくり」は、交流に重点を置きながら、地域の方や団体同士、行政などの枠組みを超えて、顔の見えるつながりを作っていこうという思いがございます。案3は「みんなのつながりを深める」でございます。つながりはすでに

ございますが、それを集めてより強く深めていくという思いでございます。案4は基本理念の案4もイメージしながら「健やかなまちづくり」といたしました。「交流、居場所」についても健やかな関係性を築きながらまちづくりを進めていくという思いでございます。

(2)「安全・安心、生活支援、相談支援」に関する目標案では、案の1「暮らしを支える活動の充実」は現行計画のものでございます。案の2は、アンケート結果や座談会のご意見の中に、買い物などの移動支援等に関する日常生活の不安や災害関係についての不安の声をいただいておりますので、わかりやすく生活に視点を置いた「安全安心な暮らしづくり」といたしました。案の3はさらにわかりやすく、まちという環境を作るという意味で「安心して暮らせるまち」といたしました。案の4はさらに言葉を削り、キャッチコピーに近い「安心のまちづくり」といたしました。

(3)「担い手（人材確保・育成）に関する目標案」の案の1は「支え合いのひとづくり」で、生活支援でも地域の助け合い、支え合いが必要ですので、それらをわかりやすく「ひとづくり」という言葉で入れております。案の2は「支え合いのこころを育む」で、人づくりの中でも特に意識啓発に重きを置き、皆様の思いを育てていくという思いを込めております。案の3は「支え合いのまちづくり」で、人や心を育んだ結果のまちづくりという環境を目指していくという思いを込めております。

(4)「連携強化に関する目標案」の案1「総ぐるみによる福祉のまちづくりの体制の構築」は現行計画のものでございます。案2は「総ぐるみ」を別の表現にいたしました。事業所様、市民の皆様、住民の皆様と行政も含めて一緒に進めるという意味で「協働のまちづくり」としております。案の3は連携強化の意味を込めて「絆」という言葉を入れ、「固い絆の関係を築く」といたしました。案の4は一緒に進める「協働」と一緒に創り上げる「共創」から成る「協働・共創のまちづくり」といたしました。

委員 支援計画や目標を作成する際、それらを変えるにはその根拠が必要です。また目標が達成された上で次のステップへ進むのが基本になります。目標とは、その後の取り組みが多岐にわたるような文言になっているものです。(4)の案1「まちづくり体制の構築」が「顔の見えるつながりづくり」「健やかなまちづくり」「安心して暮らせるまちをつくる」「支え合いのまちづくり」のように、個々の目標に壮大な言葉が入りますと、何をどうするのかを細分化するのが困難であり、個別に取り組む際に分かりにくくなってしまいます。今回の目標のポイントは案3ではないかと思っておりますので、これについての目標をプラスしていくことが現行計画のバージョンアップにつながるのではないかと感じます。そのためには目標が達成されたかの振り返りや「総ぐるみ」など伝わりにくい言葉の検証を行った上でのマイナーチェンジが良いのでは

ございませんか。その際の視点は、この計画で何をしているのかが明確で市民に伝わりやすいかどうかでございます。計画全体として「福祉のまちづくり」に焦点を当てるような文言を入れることを考えますと、現行計画はシンプルでよくできています。結局はここにいる皆様が一緒に考えるのがベストでございます。

会 長 ありがとうございます。目標でございますのであまり細分化せず、目標的な表現が望ましいと思いますが、副会長から何かございますか。

副会長 基本的には目標が何のためのものなのかでございます。我々はこの議論に入る前に課題を共有いたしました。その課題解決のために目標を立て、この目標に沿って数値等具体的な計画を考えていくなれば、27、28 ページの「まちづくりの課題」でまとめられているものを、どのような目標を設定してクリアするのかでございます。まず、つながりが希薄化していることに対するこの計画のあり方では、つながりをつくることで健やかな暮らしにつながるような言葉が目標に反映されなければなりません。また災害に対する不安も、安全や安心が伝わるようなキーワードを盛り込むべきです。さらに3番目の助け合いや支え合いでは、地域力強化の委員会報告などを拝見いたしますと、サービスの受け手・支援を受ける側が、担い手・支援を提供する側になっております。まちづくりの中で、支え合い・つながり合い・助け合いをどう大事にしていくのかの思いや言葉がここに盛り込まれる必要がございます。4番目の地域生活課題では、1つの家庭で複数の課題を抱えておられる場合等、例えば児童の問題と高齢者の問題など縦割り行政では対応しきれない、世帯への対応を求められる状況がございます。その中では専門職だけでなく地域住民と一緒に協働していくという言葉や共創という言葉がキーワードです。「連携」では専門職的な響きがございます。

このような視点で目標設定をされるといいのではないかと思います。現行計画の目標設定もこのような議論をして作られたもので、これをベースに、本日議論していただく内容のキーワードを盛り込み、さらに住民懇談会やアンケートで出てきた課題がきちんと目標の中に反映されるという方向で目標を設定していくことが大事であると思います。

会 長 ありがとうございます。細かくコメントをいただきました。その他皆様方から何かご意見やご質問はございませんか。

これについては非常に難しい問題もございますので、幅広い観点からのまとめが必要です。そこで皆様からいただきましたご意見を踏まえて、事務局と会長・副会長も含めて最終の素案を作り、次回の推進会議でお諮りしたいと思いますが、いかがでございますか。よろしいですか。いろいろなご意見をいただきました。これらの貴重なご意見を参考にいたします。ありがとうございました。

事務局 会長ありがとうございました。基本目標は今皆様からいただきましたご意見等を事務局で精査し、4つの柱の中でキーワード等を入れながら目標をつくり、皆様にお示しいたします。ありがとうございました。

3. その他

事務局 次回は計画素案について皆様とご議論いたしますのでよろしくお願ひいたします。次回も昼間の開催にいたしますがいかがでしょうか。

(異論なし)

また、基本理念や基本目標についてご意見がございましたら、7月中に事務局までご連絡いただければ、そのご意見も踏まえさせていただきます。

それでは大変熱心にご協議賜りありがとうございました。

部長 皆様には暑い中お集まりいただきありがとうございました。また、長時間にわたりご意見等を頂戴いたしました。今後はどういうことに取り組んでいくのかという計画の具体的な中身を皆様方と協議したいと存じます。

本日は8050という問題について情報がございましたので、お話しいたします。高齢者の方や50代の引きこもりがちの方について、国が5年ごとに調査しております。全体的には減少傾向でございますが、それは30歳代の方々が30代ではなくなり、対象者から外れた結果調査されていないだけで、実際の数値は上がっているだろうとのことでございました。この8050問題とは、現在30歳の方の親御さんは60歳前後、それが20年後には親御さんは80代になり、そのお子さんは50代になられます。親御さんが元気なうちは年金等で生活できますが、その方々が亡くなられた時にその50代の息子・娘さんほどのように生活されるのかということでございます。このような問題は地域の中で起こっていることでございますが、行政にまで伝わってこない現状でございます。それは家庭だけの問題ではなく、地域の中でそのような問題をいかに見つけていけるか、またそれを関係機関につなげていけるかであります。今後20年後、30年後にそのような方たちがどうなっていくのかを考えると、今から何ができるのかということもこの地域福祉計画の中に盛り込めないかと個人的には考えております。

本日は本当に長時間にわたり、ご意見等をいただきました。この地域福祉計画はこれからの5年間の計画でございますが、より良いものにしてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

暑い日が続いておりますが、お体には気を付けていただきますよう、お願ひいたします。本日は大変ありがとうございました。

閉会

事務局 以上をもちまして、第6回米原市地域福祉計画推進会議を終了いたします。ありがとうございました。